

## 福井大附特別支援学校が本出版

福井市の福井大附属特別支援学校は、「ゆっくりじゅくり」スローライフ教育―生活・手づくり・共同の12年で育つ―を出版した。自閉症や発達障害、知的障害のある4人がどう育ち、どのように社会に集立っていったのかを、当時関わった教諭が共同執筆。小中高3つの学部の垣根を越えた教諭同士のつながりや、小学1年生から高校3年生まで全員が参加する縦割り班活動といった同校の取り組みの成果が、4人の成長の様子から伝わっている。

# 「12年教育」でゆっくり

同校は、一人一人の個性 通し合うようになり、あつや能力を長い目で伸ばそう。みさんは自らの意思でさまと、小中高の各学部が連携。さまざまな活動に参加したり、12年間の見聞えた教育。他人との関わりを持ってよく取り組んでいる。この本では、そうした実践例を詳しく紹介している。

例えば、小学部の時に校内探索に役立っていた「あつみさん」には、教諭は「重要な時間も短くなくなっていったに反そう」という視点で

はなく、と「とん付き合っ気持ちで行動を共にした。全校児童生徒が縦割り班ですると、2人は次第に心が週1回活動する「レインボ

## 小中高の3学部連携

福井大附属特別支援学校の本出版を記念したシンポジウムが7月2日、福井市の福井大文京キャンパスで行われる。24日まで参加者を募集している。参加無料。

2部構成。第1部では、熊谷高幸教授や松木健一教授ら同大教員が意見交換。

来月2日にシンポ

第2部は、本の中で紹介されている子どもの保護者が12年間の成長を振り返る。

時間は午後2時から同4時まで。参加希望者は郵送またはファクス、メールで同校に申し込む。問い合わせは、同校の藤田教頭＝☎0776(22)6781

「タイム」も、同校の大きな特色。小中高の12年間をかけてゆっくりと主体性を引き出すことで、子どもた



福井大附属特別支援学校が出版したゆっくりじゅくりスローライフ教育

## 4人の歩み 教諭が共同執筆

ちは、学年が上がるごとに下級生をサポートするようになり、高等部になると班全体をまとめるようになっていく。全ての教諭と児童生徒が、顔見知り。になれるメリットもある。

本では、4人の歩みのほか、同校前校長の熊谷高幸教授や、松木健一教授ら福井大教員のコメント、保護者の声も紹介している。

同校校長の森透福井大教職大学院教授は「障害の有無を問わず、子どもの持ち味や思いにじっくりと寄り添うのが教育の原点。この本は、教育とはどうあるべきかを投げ掛けた書でもある。多くの教育関係者や気がかりな子どもを持つ保護者の皆さんに読んでいただきたい」と話している。

A5判210頁、2200円(税別)。6月下旬から県内の主要書店で取り扱う予定。問い合わせは、同校＝☎0776(22)6781。